

令和6年度 山口県中学校長会秋季研修大会開催要項

- 1 期 日 令和6年10月11日(金)
- 2 会 場 山口県光市 光市民ホール 光市地域づくり支援センター
- 3 主 催 山口県中学校長会
- 4 共 催 山口県教育委員会 光市教育委員会
- 5 主 管 光市中学校長会 下松市中学校長会
- 6 後 援 光市 (公財)日本教育公務員弘済会山口支部 (公社)日本教育会
- 7 研究主題 「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが成人して社会で活躍する頃には、我が国は新たな局面を迎えていると予想される。人口減少や高齢化、グローバル化や多極化、地球環境問題、Society5.0時代の到来等により、先行き不透明で予測が困難な時代となっている。さらに、令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、社会秩序や人々の生活等を一変させるような事態と子供たちが常に隣り合わせであることを実証することとなった。この先にある時代を担う子供たちには、様々な変化に主体的に向き合うとともに我が国の伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した日本人として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、よりよい社会を形成していく力を身に付け、望む未来を私たち自身で示し、作り上げていくことが求められる時代となっている。

令和3年度から全面実施された学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、一人ひとりの個性に応じた多様で質の高い学びを実現することを意図し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進の必要性が示されている。また、教育課程の改善をねらいとした一連のPDCAサイクルを確立すること、及び必要な人的・物的資源を含めた地域資源を効果的に組み合わせ活用を図る「カリキュラム・マネジメント」の推進も求められている。中央教育審議会の「令和の日本型教育の構築を目指して(答申)」では、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきている中、子供たちの資質・能力を確実に育成するためには、学習指導要領を着実に実施していくことが重要であるとしている。その上で、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指すとしている。

山口県教育委員会は、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトとした国の教育振興計画を参酌し、新たな「山口県教育振興基本計画」を策定した。この計画では、「未来を拓くたくましい『やまぐちっ子』の育成」という前計画の教育目標を継承するとともに、その目標達成のため「確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む教育の推進」「新たな時代を創造する人材を育む教育の推進」「誰一人取り残されることのない教育の推進」「学校・家庭・地域が連携・協働した教育の推進」「生涯を通じた学びの充実」「豊かな学びを支える教育環境の充実」の6つ施策を柱とした取組が推進されている。

私たち校長は、このような国や県における教育施策の動向にアンテナを張りながら、組織のトップとして「今」の状況を冷静に捉え分析するとともに、常に「未来」に目を向け学び続ける頭脳集団として、学校並びに社会の有り様を見据え、確かな理念のもとに学校経営を行っていかなければならない。

中学校教育の現状を見ると、いじめの問題をはじめ、暴力行為、パソコンやスマートフォン等を利用した問題行動、規範意識や社会性の未成熟、学習意欲の低下など、様々な課題が指摘されている。これらの課題の解決を図るとともに、自殺の防止や不登校生徒への支援等に取り組み、子供たちの命や安心・安全を守るためにも、学校は、家庭や地域の教育力を生かしたり、関係機関との連携を図ったりしながら「地域とともにある学校」を推進していくことが求められている。また、教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業力を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにするために、学校における働き方改革についても一層進めていかなければならない。

そして、地域住民から支持され信頼される学校の創造を目指し、山口県らしい教育の具現化を図り、広く県民の負託に応えることとする。

